

平成24年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会  
◀ 開催地市長歓迎挨拶 ▶



みなさん、こんにちは。全国各地より、日本海側の港の発展振興を図るお仲間を酒田にお迎えして「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会」を開催できることを本当に喜ばしく、みなさんの酒田へのお越しを心から歓迎申し上げたいと思います。酒田の港は、昔は北前航路の主要地として栄えました。米、紅花の交易が非常に盛んであり、当時の回船問屋や商家の富が、今日の酒田市の街の骨格、礎をつくったといっても過言ではありません。しかし明治時代には物流の中心が鉄道輸送に代わり、酒田港の地盤沈下も相当進みました。そのような状況でも港湾の特性を活かし、東ソーや花王といった化学工業の大きな工場を誘致し、港湾の利活用による地域経済の活性化も進めてきました。酒田市は山形県庄内地方に所属しますが、地形の関係で、県内内陸部を含めた他地方とつながる高規格道路が整備しづらい土地です。その意味で酒田港は物流の面では多少弱点を抱えております。そうは言っても、歴史ある港町としては逆境に負けず港の振興をしなければなりません。まず東北電力の発電所の誘致をはかり、酒田共同火力発電所が建造されました。現在も東日本大震災の影響を受け日本全体で電力が不足している状況ですので、フル稼働しております。

もう一つは特色を持った港づくりをしなければ利用者を伸ばせないということで、リサイクル拠点としての機能の強化に取り組んでおります。リサイクルポートの指定を受け、その後の企業立地も相当進んでおります。エネルギーの拠点として、リサイクルの拠点としての役割が年々高まっています。これらの要点でもあり、酒田港は国の重点港湾、日本海側拠点港の指定を受けています。

これからいっそう日本海が経済の海、交流の海になることは間違いない。ただ、近年の経済停滞もあり、港湾振興にとっても決して明るい状況ではない。本気でがんばらなければならないと思っていたところ、東日本大震災があった。酒田港も太平洋側の被災した港の代替港湾となり、

コンテナ数、貨物量ともに扱ひ量が増加しました。

明日は昔の港である本港地区で「みなとオアシスマつり」が開催されます。新潟港を母港とする大型浚渫兼油回収船の「白山」の寄港を始め、様々なイベントが開催されます。皆様にもぜひお越しいただきたい。

最後に、親水空間としての酒田港の整備について申し上げたいと思います。酒田港はこれまで、観光資源や地域住民のための親水空間としてはあまり活用されてこなかった。数年前に国の補助を受けながら、海鮮市場とみなと市場をつくりました。今では、かなり多くの観光客が訪れ、地元のみなさんから愛されています。ここにいらっしゃる港町のみなさんもそうだと思いますが、港の運営に苦勞をしながら、それでも港町にとって港に元気がなければ地域全体の元気がなくなってしまうという思いで一生懸命努力しているのが酒田港の現状です。ここにお集りのみなさんは、似た悩みを共有できると思います。総会や交流会を通じて悩みを共有し、いろんなヒントを得ていただき、地元の港の振興のためにひと働きもふた働きもしていただきたいと思います。ようやく東北の方も梅雨が明けました。九州の方には申し訳ありませんが、今年は空梅雨でした。代わりに去年は豪雨でありましたが…。とにかく梅雨も明け、いよいよ夏本番です。海は冬もいいですが、夏の日本海というのは、鏡のように穏やかですばらしい。いよいよ日本海の海の季節がやってきました。会議だけでなく、みなさんの酒田滞在が、安全で有意義なものとなるようご祈念申し上げて歓迎のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。